

令和6年度第1回利用者懇談会開催結果概要

- 1 日 時 令和6年9月5日（木） 13:30～15:00
- 2 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
- 3 出席委員 田村副委員長、青柳委員、新井委員、佐藤委員、古堂委員、
渡部委員、渡辺委員（青柳委員、渡辺委員はオンライン参加）
事務局 新井所長、細野副所長、木村副所長、薄井事業コーディネータ、
渡辺事業担当部長、磯田相談担当部長、川端事業担当課長、
上木相談担当課長、阿部管理担当課長
- 4 あいさつ 埼玉県男女共同参画推進センター 新井所長
- 5 議 事
 - (1) 令和6年度事業概要について 資料に基づき新井所長が説明
 - (2) 意見交換

【質疑・意見】

委員：6月30日のアルテイシアさんの講演に参加させていただいた。若い方も結構いらっしゃっていて、とても楽しい講演だった。このような皆さんが来たいと思う講演を毎回実施していて、すごい企画力だといつも思っている。今年もとても期待している。

委員：広報紙の表紙イラストが、規範的な女性らしい・男性らしいイメージではない、多様なジェンダー表現の人物が描かれているのが良いと思った。相談コラムの中でも、男か女かを前提とする社会のシステムに当てはまらないと感じる人もいることが言及されていて、どなたが制作しているかわからないが、感謝申し上げたい。

また、今後メタバース空間での相談や交流会を計画しているとのことだが、今はどのような進行状況か。当団体でもメタバースの居場所というものを実施しているが、メタバースだからこそできる魅力がないと、実際の利用者増にはつながっていかないと感じている。

事務局：広報紙は事業担当の専門員が担当しており、表紙イラストについても印刷業者に細やかかつ的確に指示を出している。広報紙の文章は、相談コラム含め、基本的にセンター職員が書いているので、そういったお褒めの言葉をいただけるととても励みになる。

メタバース相談は、県の「バーチャル埼玉」の中で実施している。10月から、偶数月は臨床心理士との個別相談、奇数月はオンラインカフェのような交流会を企画している。匿名性などメタバースならではの強みは重要だと

思うので、いろいろ試行錯誤しながらやっていきたい。皆様にも忌憚のないご意見をいただければと思う。

委員：若い方が対象だと思ってる人も多いので、年配の人でもわかるような取組をしてほしい。年配の男性だと男尊女卑の考え方をする方もいるのではないかと思うが、そういう人にこそ講座を聞いてもらえるとよいと思う。

また、悩みがある人は何番に電話をしてくださと言われてるが、本当に苦しんでいる人は、相談できない、したくてもちょっと引いてしまう面があると思う。そういう人を1人でも助けられるような取組があればいい。

委員：今日の話聞いて本当に驚いた。ジェンダー主流化も初めて聞いた。自分ではそういうことに関わっていろいろなことをしてきたと思うが、時代はすごくスピードアップして変わっているんだと感じた。ついていけないと思うこともあるが、若い人達が興味を抱いていることはどんどん推進して行ってほしい。一方、高齢者のDVも大きな課題だと思うので、自分にできることはしていきたい。

委員：男性・若者への啓発を重視しているということだが、今年、特に学校関係で何か連携等を予定していたら教えていただきたい。先日、学校の校長先生から、With Youに相談できたことで、これまで県の各部局に問い合わせなければならなかったことが、ワンストップでいろいろな情報やつながりをつけてくれたと聞き、とても感銘を受けた。

また、実際に学校等から相談があった場合にどのように対応しているのか、話せる範囲で教えていただきたい。

事務局：学校関係の連携・取組については、大学の授業の一環としてセンターをご利用いただき、出前講座の基礎講座、防災、デートDVをセットで講義するといったことを引き続き行っている。また、目白大学との連携事業も引き続き行う予定である。目新しいものはないが、ずっと続いているこのような取組やつながりをより充実・強化していくことが肝要だと思う。

学校から相談があった場合は、連絡をいただく先生の横に、対象の生徒がいる場合が多いので、本人に電話を代わり、「先生から話を聞いたが、あなたはどう思っているのか」という確認をして、その子が何を希望するかによって対応は変わってくる。また、学校の先生からも、「うちの学校でこういう生徒がいるがどう対応したらよいか」といった相談は時々あり、その都度対応している。

委員：広報紙などは、以前は各施設に送っていただいて目にすることが多かったが、最近はそのような形ではなく、紙ベースではないことが増えていて、本

当に必要とする人のところに届いているか少し心配になる。

事務局：最近印刷費の予算が年々目減りしており、広報紙についても今年度は部数を減らさざるを得なかった。そのため、一施設当たりの部数を減らしたり、対象に応じて配布先を見直したりしている。誠に申し訳ないがご理解いただきたい。特に、若い方は SNS による情報入手が多くなっているため、X や LINE 等、SNS のツールを使って情報提供している。紙を減らす分、それで補完している状況なのでご理解いただければと思う。

委員：来年度、全国植樹祭が埼玉県で開催される。この前ミーティングをしたときに、国旗・県旗の掲揚について、国旗はボーイスカウト、県旗はガールスカウトで、という話が出た。相談がなくそのような話を聞いて驚いたが、実際にガールスカウトが国旗、ボーイスカウトが県旗となると、前代未聞ではないかなどいろいろ考えてしまった。最終的に、決まっていたことを受け入れるのではなく、自分たちで県旗を選択するという結論を出したが、ちょっとしたアンコンシャス・バイアスかと思ったことがあった。

事務局：全国植樹祭は、おそらく前年に実施した県からマニュアルをいただき、基本的にそれを踏襲する形でやっているのではないかと思われる。